

Canon EOS 100QD



使用説明書

J

日本語版

キヤノン製品のお買い上げありがとうございます。

「高機能を使いやすく」をテーマに開発されたこのオートフォーカス (Auto Focus: AF/自動ピント合わせ) 一眼レフカメラ EOS 100QD には、EOS シリーズ中最も静粛なサイレントメカニズム、バーコード付き写真作例集アートコードブックの撮影データを最大 5 つまで取り込むことができるアートコードシステム、28 mm 広角レンズに対応したオートズームストロボ、操作性の向上をはかったツイン電子ダイヤルなど、先進の EOS テクノロジーが数多く搭載されています。特にサイレントメカニズムは今までカメラの作動音のために撮影が難しかったシーンの撮影も可能にしました。理解のうえ EOS 写真の世界をお楽しみください。

* この使用説明書はカメラに EF28-80mm F3.5-5.6USM ズームレンズを取り付けた状態で説明していますが、他のレンズをお使いになる場合も操作方法に変わりはありません。

主な特長

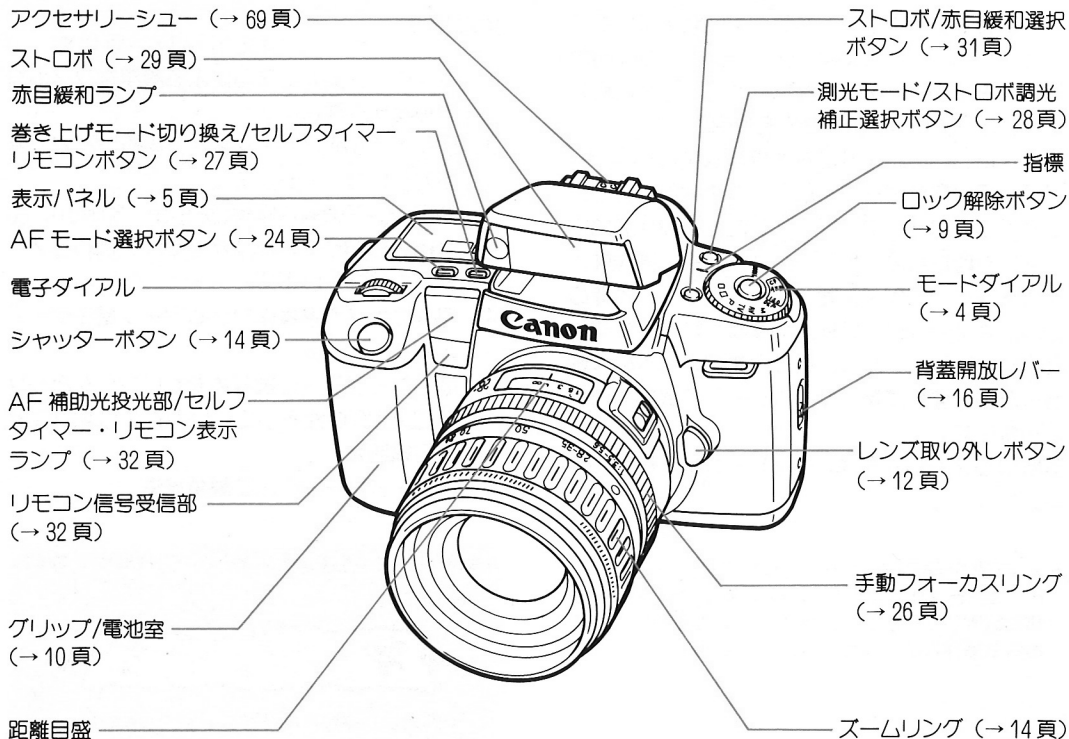
1. サイレントメカニズムによる静粛なフィルム送りと巻き戻し
2. 5 つまでの撮影データを入力することができるアートコードシステム
3. 使用レンズの焦点距離 (28 mm、50 mm、80 mm) に応じて照射角が自動的に変わるオートズームストロボ
4. 迅速にカメラを操作できるツイン電子ダイヤル
5. 低コントラストの被写体でもピントを合わせることができるクロスタイプ BASIS と AF 補助光
6. イメージゾーンによる簡単撮影

表紙と裏表紙の各部の名称を図のように開いてご覧ください。



・本文中の (→■頁) は参照頁を示しています。

各部の名称



モードダイヤル

クリエイティブゾーン

P：インテリジェントプログラム AE (→ 36 頁)

Tv：シャッター優先 AE (→ 38 頁)

Av：絞り優先 AE (→ 40 頁)

M：マニュアル露出 (→ 42 頁)

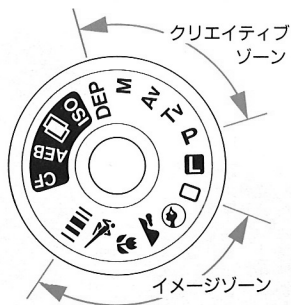
DEP：深度優先 AE (→ 44 頁)

ISO：フィルム感度セット (→ 58 頁)

☑：多重露出 (→ 54 頁)

AEB：オートブラケティング (→ 51 頁)

CF：カスタム機能 (→ 59 頁)



イメージゾーン

□：全自動 (→ 18 頁)

👤：ポートレート (→ 19 頁)

🏞️：風景 (→ 19 頁)

🌸：クローズアップ (→ 20 頁)

🏃：スポーツ (→ 20 頁)

|||||：アートコード (→ 21 頁)

パネル表示

このカメラは撮影のための情報を、大型の表示パネルに表示します。下の図は情報をすべて表示したのですが、通常は必要な情報だけが表示されます。

シャッター速度
ISO フィルム感度値
深度優先 AE 表示
バーコードプログラム No. 表示
カスタム機能 No. 表示

ISO フィルム感度表示

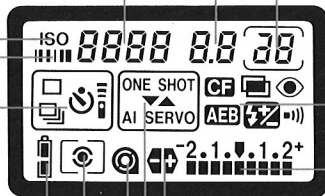
バーコードプログラム表示

フィルム送り表示
一枚撮り
連続撮影
セルフリリモコン撮影

バッテリーチェック表示

測光方式表示
評価測光
部分測光
中央部重点平均測光

フィルム状態表示
フィルム在否確認
フィルム巻き戻し完了



絞り値
AEB ステップ値
DEP 回数
カスタム機能セット

フィルム枚数計
多重露出予約回数
多重露出撮影回数

カスタム機能表示
多重露出表示
赤目緩和表示
AEB 表示
ストロボ調光補正表示
電子音表示

露出表示
露出補正表示
AEB 露出ずらし量表示
ストロボ調光補正量表示
赤目緩和ランプ点灯表示


マニュアル露出表示

AF モード表示
ONE SHOT AF
AI SERVO AF
手動ピント合わせ (全 AF 表示消灯)

・モードダイヤルを L にセットしても、カメラは表示のために微弱な電流を必要とします。

もくじ

I 初級編	9	2) AI SERVO (エーアイサーボ) オート フォーカス	25
[1] 撮影前の準備	10	3) 手動ピント合わせ	26
1. 電池のセットとチェック	10	2. フィルム巻き上げの切り換え	27
2. レンズの取り付け/取り外し	12	1) □ (一枚撮り)	27
3. シャッターボタンとオートフォーカス	14	2) ㊦ (連続撮影)	27
4. フィルムのセットと巻戻し	16	3) ㊦ (セルフタイマー/リモコン)	27
[2] イメージゾーンでの撮影	18	3. 測光方式の切り換え	28
1. □ (全自動)	18	4. 内蔵ストロボ	29
2. ㊦ (ポートレート)	19	1) 自動発光	29
3. ㊦ (風景)	19	2) 手動発光	29
4. ㊦ (クローズアップ)	20	5. セルフタイマー	32
5. ㊦ (スポーツ)	20	6. クォーツテート	33
6. ㊦ (アートコードプログラム)	21	1) 日付/時刻の写し込み	33
II 上級編	23	2) 日付/時刻の修正	34
[1] 基本機能の変更	24		
1. フォーカス方式の切り換え	24		
1) ONE SHOT (ワンショット) オートフ ォーカス	24		

[2] クリエイティブゾーンでの撮影	36	IV 資料編	61
1. P (インテリジェントプログラム AE)	36	1. 露出警告一覧表	62
2. Tv (シャッター優先 AE)	38	2. プログラム線図	64
3. Av (絞り優先 AE)	40	3. 機能組み合わせ一覧	66
4. M (マニュアル)	42	1) イメージセレクトの機能組み合わせ	66
5. DEP (深度優先 AE)	44	2) AF モードとフィルム巻き上げ	66
III 応用編	47	4. アクセサリー	67
1. AE ロック	48	■専用スピードライト	67
2. 露出補正	49	■リモートコントローラー RC-1	68
3. 内蔵ストロボの調光補正	50	■延長グリップ GR-70	68
4. AEB (オートブラケット)	51	■視度補正レンズ	69
5.  (多重露出)	54	■レンズフード	69
6. パルプ (長時間露出) 撮影	56	■フィルター	69
7. フィルム感度の手動セット	58	■カメラケース	70
8. カスタム機能 (CF)	59	取り扱い上のご注意	71
		主要性能表	74

保証書について

同封されている「ご愛用者カード」をお送りください。キヤノン EOS ご愛用者として登録させていただくと同時に、本製品の「国際保証書」をお送りいたします。もし「ご愛用者カード」をお手元に置かれますと、万一故障した際、保証期間内の無料修理を受けることができませんのでご注意ください。

「ご愛用者カード」は必要事項をご記入のうえ、ご投函またはご購入店にお渡しください。なおお送りくださる際、販売店名印がない場合は、お手数ながら手書きにて店名、住所(または所在地名)、電話番号をご記入のうえお送りください。

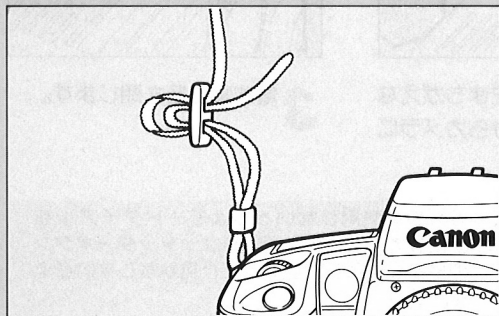
I 初級編

初めて一眼レフカメラをお使いになる方は、この初級編からお読みください。

撮影前の準備から気軽に写真が撮れる方法までを順に説明しています。

ネックストラップの取り付け方

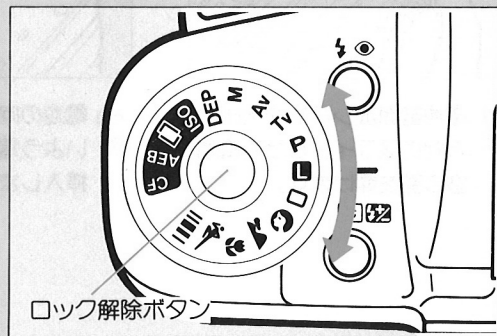
ストラップ（吊りひも）の先端は、図のように止め具の内側になるように通してください。



モードダイヤル

モードダイヤルのロック（L位置）を解除するときはダイヤル中央にあるロック解除ボタンを押しながらモードダイヤルを回します。

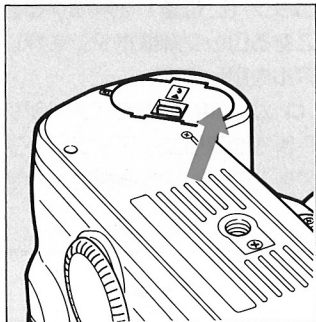
Lはロック位置、□から|||||までをイメージゾーン、PからDEPまでをクリエイティブゾーンといいます。ダイヤル上のマークを指標に合わせて使用します。



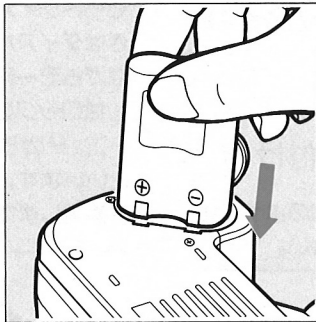
[1] 撮影前の準備

1. 電池のセットとチェック

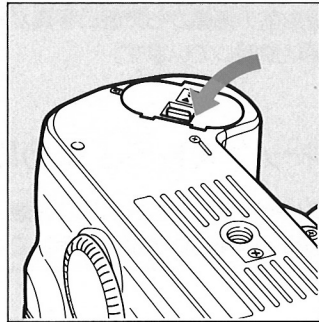
電池はリチウム電池/パック (2CR5) 1個を使用します。



1 電池室開放レバーを矢印の方向にスライドさせて電池室の蓋を開けます。

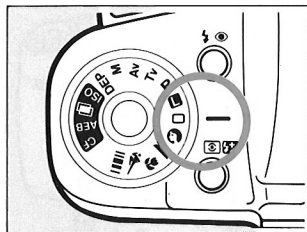




2 電池の向きををまちがえないよう電極側からカメラに挿入します。



3 電池室の蓋を閉じます。

カメラを使用しないときはモードダイヤルをLにしてください。不用意なシャッターボタンの半押しによる電池の消耗と無駄写しを防ぎます。



- 4** ロック解除ボタンを押してモードダイヤルを  にセットし、表示パネルの電池マークを確認します。
表示パネルに  が点灯すれば電池容量は十分です。

- 表示パネルに何も表示されない場合は、電池が逆向きに入っていることが考えられます。その場合は正しい向きに入れ直してください。



半分の電池マークが点灯したときは新品の電池をご用意ください。



空の電池マークが点灯したときは新品の電池に交換してください。



空の電池マークが点滅したときは72頁を参照してください。

●リチウム電池 2CR5 の寿命 (フィルム給送本数)

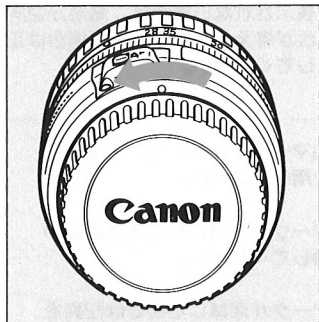
温度	ストロボ撮影なし	50%ストロボ撮影	全てストロボ撮影
常温 (+20°C)	100本	30本	15本
低温 (-20°C)	28本	13本	7本

* 新品電池・EF 28-80 mm F 3.5-5.6 USMレンズ・24枚撮りフィルム使用。

* フィルム給送本数には、フィルムを入れずに空撮りした本数も含まれます。

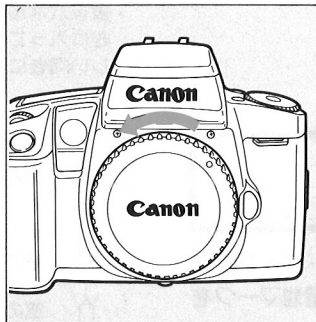
* 当社試験条件による。

2. レンズの取り付け/取り外し

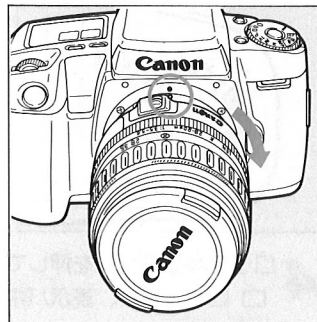


- 1** レンズの底ぶたを矢印の方向に回して外します。

お買い求めになったカメラに
あらかじめレンズが装着され
ている場合もあります。

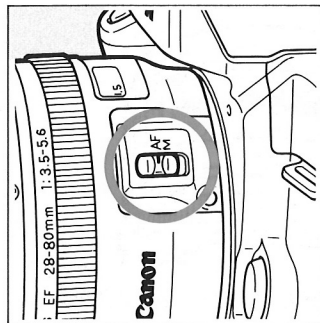


- 2** ボディキャップを矢印の方向に回して外します。



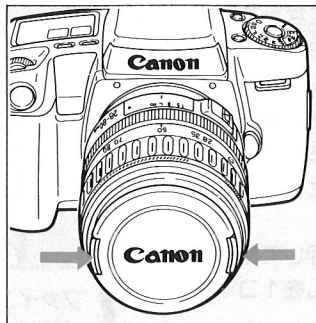
- 3** レンズとカメラの赤いマークを合わせて、レンズを矢印の方向にカチッと音がするまで回します。

- ・レンズを外すときは、レンズ取り外しボタンを押しながら逆方向に回します。



4 レンズのフォーカスモードスイッチをAFにセットします。

- Mになっているとオートフォーカスできません。
- オートフォーカス作動中は、レンズの回転部分には触れないでください。



5 レンズキャップを外します。

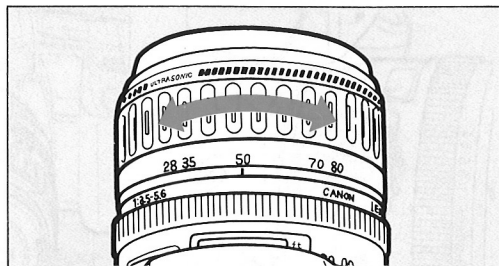
EOSは完全電子化マウントにより、専用のキャノンEFレンズとの間でピント・露出調整の情報交換を行なっています。他社製のレンズをEOSに使用すると、カメラまたはレンズが正常機能を発揮しないことがありますのでご注意ください。また、他社製品との組み合わせ使用に起因する事故・故障につきましては保証いたしかねます。

3. シャッターボタンとオートフォーカス

EOS のシャッターボタンは二段階になっています。シャッターボタンを軽く一段目まで押すと「ピピッ!」と電子音がして被写体にピントが合い、ファインダー内と表示パネルにその時の露出情報（シャッター速度、絞り値）が表示されます。シャッターボタンを一段目まで押すことを「半押し」といいます。

半押しの状態からさらに二段目まで押して撮影します。シャッターが切れて、フィルムを1コマ巻き取り次の撮影に備えます。

- ・モードダイヤルが □ にセットされていることを確認してください。



- 1 ファインダーを除いてズームリングを回し、被写体の大きさを変えて構図を決めます。

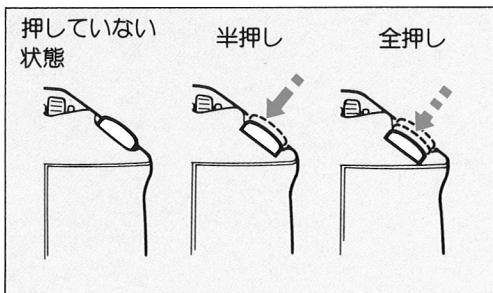
6秒タイマー機能

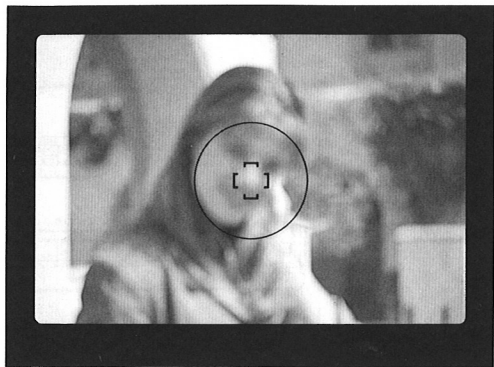
シャッターボタンを半押ししたあとで指を離しても、表示パネルとファインダーの表示は約6秒間表示されています。

ファインダー内の表示

シャッターボタン半押しで被写体にピントが合うと、ファインダー内には合焦ランプおよびシャッター速度と絞り値が表示されます。なお、表示パネルにも露出表示（シャッター速度と絞り値）が現れます。


- ・合焦ランプが点滅するときはシャッターが切れません。26頁を参照してください。






2 AF フレーム ([]) を被写体に合わせます。

(手振れ警告) の点滅

シャッター速度が手振れを起こす速度になると、ファインダー内に  が点滅して警告します。このようなときには、カメラの構え方とシャッターボタンの押し方に十分注意して撮影するか、三脚の使用をお勧めします。

-  の点滅は Tv (シャッター優先 AE) と M (マニュアル) を除きます。



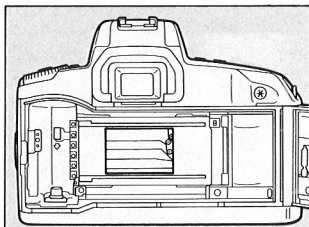
3 シャッターボタンを半押しします。ピピッ！という電子音と共にピントが合い露出が決まります。さらにシャッターボタンを押して撮影します。

- 被写体が暗いときや逆光のときはストロボが自動的に発光します。

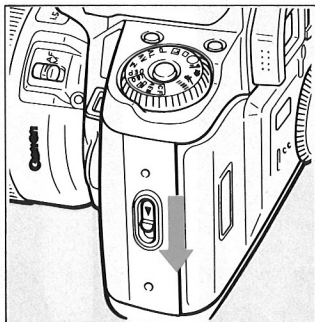
フォーカスロック

ピントを合わせた後シャッターボタンを半押しのまま保持すると、ピントと露出が固定されたままになりピントを合わせた後に構図を変えて撮影することができます。

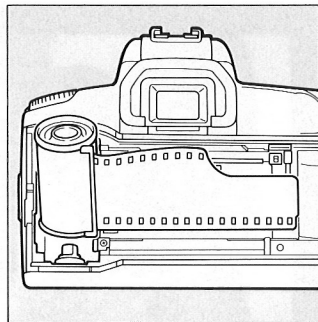
4. フィルムのセットと巻戻し



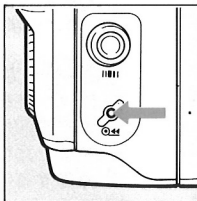
シャッター幕は非常に高い精度で作動しますので、絶対に手を触れないでください。また、フィルムを入れる際に誤って指やフィルムでシャッター幕を破損・変形させないように充分ご注意ください。フィルムの感度は自動的にセットされます（DX マークのついていないフィルムを除く）。




1 背蓋開放レバーをスライドして背蓋を開きます。

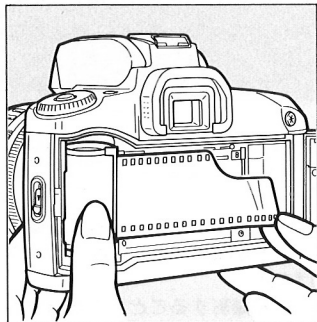


2 フィルムを図のように斜めにしながら入れます。



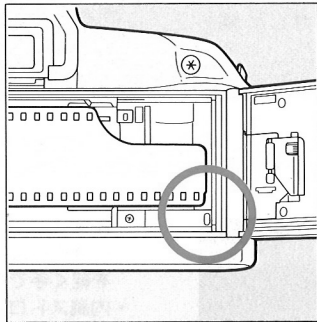
フィルムの途中巻き戻し

フィルム巻き戻しボタンを押すと、ただちにフィルム巻き戻しを開始します。巻き戻しが終了すると表示パネルの  が点滅します。



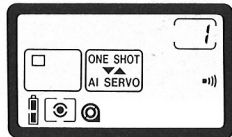
3 パトローネ(フィルム容器)を押さえながら、フィルムを引かさないようにしてフィルムの先端をオレンジマークに合わせます。


- ・フィルムを引き出し過ぎたときはパトローネに少し巻き戻してください。



4 フィルムの先端がオレンジマークに合っていることを確認して背蓋を閉じます。



- ・背蓋を閉じると、自動的にフィルムを巻き上げ1枚目にセットします。



表示パネルに  とフィルムの1枚目を意味する1が表示されます。

- ・フィルムマークが点滅した場合はフィルムが正しくセットされていないので、背蓋を開けてフィルムを入れなおしてください。フィルムが正しくセットされていないとシャッターボタンを押してもシャッターは切れません。

フィルムの巻き戻し

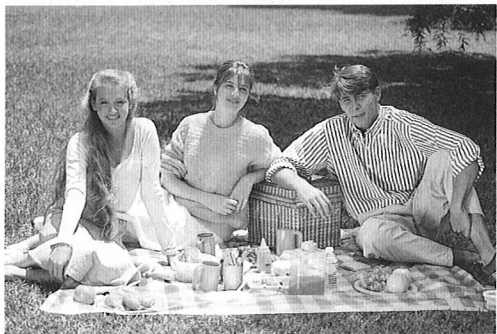
フィルムが終了すると自動的に巻き戻しが始まります。巻き戻しが終了すると表示パネルの  が点滅します。  の点滅を確認して背蓋を開けフィルムを取り出します。

[2] イメージゾーンでの撮影

イメージゾーンの各マークはそれぞれにふさわしい測光方式や AF モードなどがあらかじめ組み合わせられています。

- イメージゾーンで外付けストロボを使用するとイメージ通りの写真が撮れないことがあります。イメージゾーンでは外付けストロボを使用しないでください。
- それぞれの組み合わせ内容については 66 頁を参照してください。

1. □ (全自動)



全自動は被写体を選ばず気軽に撮影することができるようピント合わせ、露出、フィルム送りが最適にセットされています。

- 被写体が暗いときや逆光のときはストロボが自動的に発光します。ストロボを収納するときはストロボを軽く手で押し下げます。
- 内蔵ストロボで赤目緩和撮影することができます (→ 31 ページ)。
- AF モードが ONE SHOT AF の場合、カメラが手振れを検知すると自動的に手振れにくいシャッター速度をセットします。

AF モードの自動切り換えについて

全自動ではカメラが被写体の動きを検知して、被写体が動いていなければ ONE SHOT、動いていれば AI SERVO (→ 25 頁) というようにオートフォーカス方式を自動的に切り換えます。

- AI SERVO に切り換わると合焦マークの点灯と電子音による合焦表示はありません。

2. (ポートレート)



背景をボカして人物を浮き立たせて撮影するときにセットします。

- ・シャッターボタンを押し続けると連続撮影になります。
- ・被写体が暗いときや逆光の時はストロボが自動的に発光します。

背景を効果的にボカすには、人物を背景からできるだけ離して、頭から腰がファインダー内一杯になるようにします。また望遠系のレンズがより効果的です。ズームレンズをお使いの方はレンズを望遠側にして撮影してください(28-80mmのレンズなら80mmです)。

3. (風景)



近景から遠景までを鮮明に撮影するときにセットします。ズームレンズをお使いの方はレンズを広角側にして撮影してください。近景から遠景までの奥行き感に加えて、横の広がりも表現することができます。

4. (クローズアップ)



レンズに内蔵されているマクロ機構を利用して、草花や昆虫を大きく撮るときにセットします。使用レンズの最短撮影距離まで被写体に近づいて撮影しましょう。ズームレンズの場合は、望遠側にすると被写体をさらに大きく撮影することができます。

- ・被写体が暗いときや逆光の時はストロボが自動的に発光します。ストロボを収納するときはストロボを軽く手で押し下げます。
- ・被写体までの距離が 1 m 以内になるとストロボの光がレンズによってケラれることがあります。
- ・本格的なクローズアップ撮影にはマクロレンズの使用をおすすめします。

5. (スポーツ)



スポーツや運動会などの動きの速い被写体を撮るときにセットします。スポーツ撮影には EF70-210mm F3.5-4.5USM などの望遠系のレンズをおすすめします。シャッターボタンを半押しのまま被写体を追い続けてください。EOS がピントを合わせ続けます。

- ・シャッターボタンを押し続ければ連続撮影になります。

6. ■■■■ (アートコードプログラム)

■■■■ はアートコードシステムを利用するモードです。

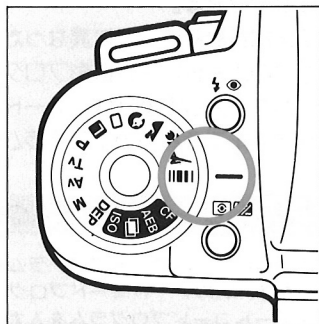
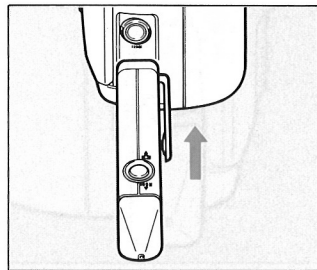
アートコードシステムは専用のバーコードリーダーとEOSアートコードブックから成っています。ブックには豊富な作例とその撮影データがアートコードプログラムとして収録されています。

専用のバーコードリーダーでこれらのプログラムをカメラに入力することによって、初めて一眼レフカメラを手にする方にもEOSアートコードブックにあるような美しい写真を簡単に撮影することができます。

- ・併せてEOSアートコードブックを参照してください。

1 EOSアートコードブックからバーコードリーダーで希望するアートコードプログラムを読み取ります。

- ・バーコードリーダーおよびEOSアートコードブックの使用方法についてはEOSアートコードブックを参照してください。

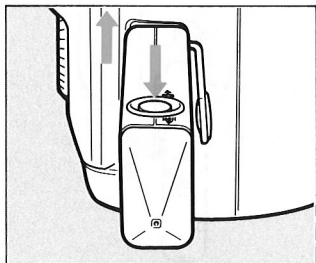


2 モードダイヤルを■■■■にセットします。

3 アートコードプログラムを読み取ったバーコードリーダーの出力部をカメラのアートコードプログラム受信部に押しつけます。

- ・表示パネルに■■■■が点滅しプログラム番号が表示されます。カメラにアートコードプログラムが何も入力されていない場合はP00と表示されます。









4 バーコードリーダーをアートコードプログラム受信部に押しつけながらバーコードリーダーの作動ボタンを押し、入力を終了します。

- ・アートコードプログラムが入力されると電子音が鳴り、表示パネルの **||||** が点灯に変わり、入力されたアートコードプログラム番号が表示されます。
- ・アートコードプログラムによっては被写体が暗いときや逆光のときはストロボが自動的に発光します。ストロボを収納するときはストロボを軽く手で押し下げます。

■ 5つのアートコードプログラムを入力する

|||| だけでなく     にもアートコードプログラムを入力することができます。モードダイヤルを切り換えることによって、5つまでのプログラムをカメラに入力することができます。

例えば各撮影モードに異なった5つのポートレート撮影プログラムを入力しておけば、モードダイヤルでそれらのプログラム

を簡単に切り換えて使用することができます。

プログラムの入力、モードダイヤルでプログラムを入力する撮影モードを選択し、**||||** に入力する方法と同じ手順で行ないます。

入力したアートコードプログラムは、そのプログラムを解除するか、新たにプログラムを入力するまでカメラに記憶されています。

アートコードプログラムの解除

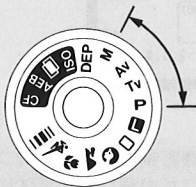
入力したアートコードプログラムを解除して元の撮影モードに復帰させるときは、次のアートコードプログラムを入力します。

- ・アートコードプログラムを入力する前の **||||** は全自動と同じです。



II 上級編

初級編では撮影の準備や、気軽に撮影できるイメージゾーンについてご説明しましたが、上級編では基本機能の変更方法やクオートモードの設定方法、クリエイティブゾーンでの撮影、内蔵ストロボの使い方などについてご説明します。

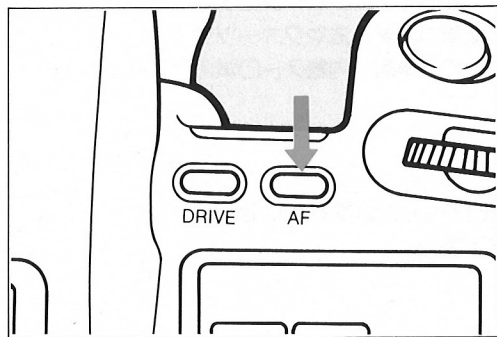


モードダイヤルをP～Mのいずれかにセットしてから操作してください。

[1] 基本機能の変更

1. フォーカス方式の切り換え

被写体にピントを合わせる方法にはONE SHOTとAI SERVOの2種類のオートフォーカス（自動ピント合わせ）と手動ピント合わせがあります。

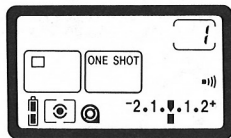


AFモード選択ボタンを押すと表示パネルのフォーカスモード表示がONE SHOTとAI SERVOに交互に切り換わります。表示パネルで確認しながら設定してください。

1) ONE SHOT（ワンショット）

オートフォーカス

動きのない被写体を撮るときにセットします。ピントが合うまでシャッターが切れないのでピンボケ写真を防ぐことができます。ピントが合ったときに同時に露出も決まります。



被写体や撮影条件によってはファインダー内の合焦マークが点滅して被写体にピントが合いにくいことがあります。そのようなときはフォーカスロック（→15頁）で撮影するか、手動でピントを合わせてください。

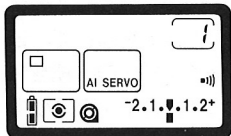
- ・ AF フレームで捉えた被写体が暗すぎたりコントラストがない場合は、自動的に AF 補助光が光ってピントを合わせやすくします。

2) AI SERVO (エーアイサーボ)

オートフォーカス

連続的に動く被写体を撮るときにセットします。被写体の動きに合わせてレンズが動きピントを合わせます。*動体予測機能により、カメラに向かって近づいて来る被写体、あるいは遠ざかる被写体にもピントを合わせることができます。露出はシャッターが切れる直前に決まります。

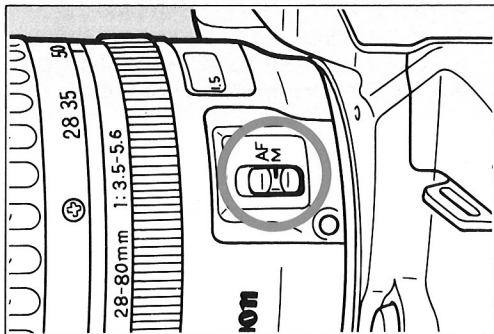
- ・合焦マークの点灯と電子音による合焦表示はありません。
- ・フォーカスロック撮影はできません。



*動体予測機能

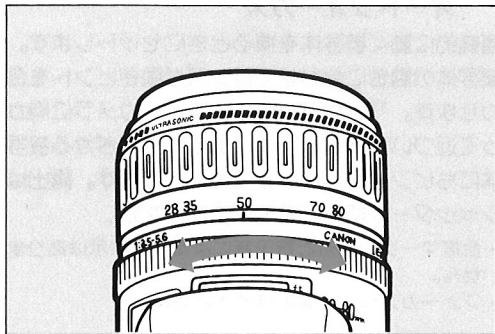
被写体がカメラに近付いてくる場合または遠ざかって行く場合に、シャッターが切れる直前に正しいピントが得られるよう、その被写体の位置を予測してピントを調整する機能です。

3) 手動ピント合わせ



1 レンズのフォーカスモードスイッチをM (MANUAL: 手動) にセットします。

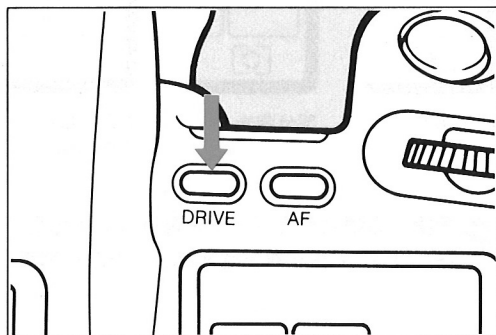
- ・表示パネルに表示されているフォーカスモード表示が消えます。





2 レンズの手動フォーカスリングを回して、ピントを合わせます。ファインダー内の被写体が見えればピントが合った状態です。

2. フィルム巻き上げの切り換え

フィルムを巻き上げる方法には一枚撮りと連続撮影の2種類があります。



巻き上げモード切り換え/セルフタイマー・リモコンボタンを押すと表示パネルのフィルム巻き上げモード表示が □ (一枚撮り)、 (連続撮影)、 (セルフタイマー/リモコン) に切り換わりま
す。表示パネルで確認しながら設定してください。

1) □ (一枚撮り)

撮影の度にフィルムを1枚巻き上げます。一般にはONE SHOT オートフォーカスと組み合わせます。

2) (連続撮影)

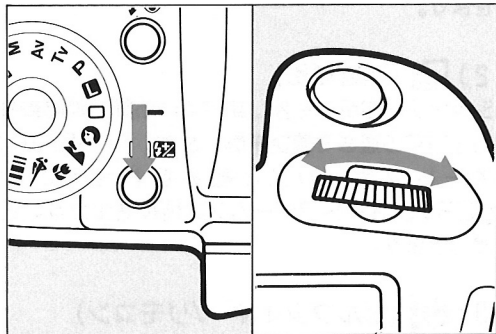
シャッターボタンを押し続けている間、秒間最高約3コマの速さで連続撮影します。AI SERVO オートフォーカスと組み合わせるとAI SERVO オートフォーカスの特長を生かすことができます。

3) (セルフタイマー/リモコン)

セルフタイマー撮影またはリモコンによる撮影を行なうときにセットします。

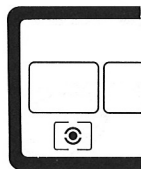
3. 測光方式の切り換え

測光方式を評価測光、部分測光、中央部重点平均測光の3つの方式から自由に変更することができます。

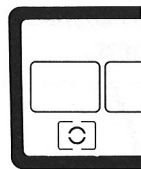


1 測光モード/ストロボ調光補正選択ボタンを押しながら電子ダイヤルを回します。

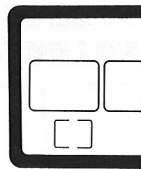
- 表示パネルの測光方式表示が [E] (評価測光)、[P] (部分測光)、[A] (中央部重点平均測光) と変わります。



評価測光



部分測光



中央部重点
平均測光




2 希望する測光方式マークを表示して測光モード/ストロボ調光補正選択ボタンを離します。

4. 内蔵ストロボ



1) 自動発光

内蔵ストロボは使用レンズの焦点距離(28mm、50mm、80mm)に応じて照射角が自動的に変わるオートズームストロボです。

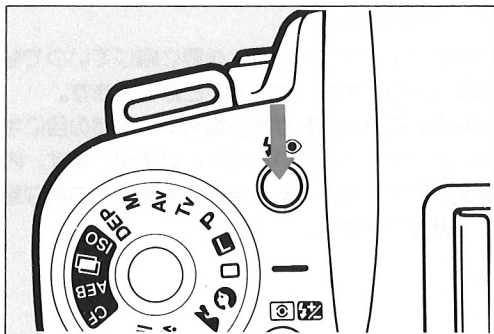
イメージゾーンのうち   および  の一部のプログラムで、被写体が暗いときや逆光のとき自動的に上がって発光するフルオート自動調光ストロボです。ストロボを収納するときはストロボを手で軽く押し下げます。

2) 手動発光

クリエイティブゾーンでは必要に応じていつでも内蔵ストロボを発光させることができます。被写体に極端な陰影がある場合や、人物の目にキャッチライトが欲しいときなどに使用します。内蔵ストロボを利用すると被写体も背景も自然な感じで撮影できます。

次のレンズを使用すると内蔵ストロボの光がケラれることがあります。これらのレンズでストロボを使用するときは外付けの専用ストロボをおすすめします。

- ・ EF20 - 35mm F2.8L、EF28 - 80mm F2.8-4L などの大口径レンズ
- ・ EF80 - 200mm F2.8L、EF50 - 200mm F3.5-4.5L などの長焦点ズームレンズ
- ・ EF300mm F2.8L、EF600mm F4L などの超望遠レンズ



1 ストロボボタンを押してストロボを上げます。

2 シャッターボタンを半押しするとファインダー内に露出表示と共に ⚡ が表示されます。

3 撮影します。

・ストロボを収納する場合は手で軽く押し下げます。




●同調シャッター速度と絞り値

撮影モード	同調シャッター速度	絞り値
P (インテリジェントプログラムAE)	1/60~1/125 秒に自動セット	TTL プログラムによる調光絞り値を自動セット
TV (シャッター優先 AE)	1/125 秒以下の任意のシャッター速度を手動セット*	セットしたシャッター速度に対し明るさに応じて絞り値を自動セット
Av (絞り優先 AE)	セットした絞り値に対し明るさに応じて 30"~1/125 秒を自動セット	任意の絞り値を手動セット
M (マニュアル)	1/125 秒以下の任意のシャッター速度を手動セット*	任意の絞り値を手動セット

* 1/125 秒以上にセットした場合は、自動的に 1/125 秒にセットされます。


30 *後幕シンクロは (→ 59 頁) カスタム機能 (CF2) を参照してください。

- ・レンズフードを付けたまま内蔵ストロボを使用すると、フードでストロボの光がケラれてしまいます。内蔵ストロボを使用するときは必ずレンズからフードを外してください。
- ・内蔵ストロボと外付けストロボを併用することはできません。
- ・アクセサリシューに専用ストロボおよびカバーを取り付けると内蔵ストロボは作動しません。
- ・ストロボを押さえたままストロボボタンを押すと、表示パネルに  が点滅してカメラが作動しなくなりますが故障ではありません。シャッターボタンを半押しするとカメラは正常に戻ります。

●ストロボ連動距離範囲 (EF28-80mm F3.5-5.6USM を使用した場合)

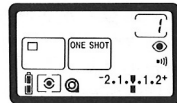
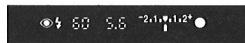
ISO	28mm		80mm	
	ネガ	リバーサル	ネガ	リバーサル
100	1.0~4.8	1.0~3.4	1.0~4.3	1.0~3.0
400	1.1~9.6	1.5~6.8	1.0~8.6	1.0~6.0

ストロボ撮影と赤目緩和撮影

ストロボをポップアップしてから再度ストロボボタンを押すと、ファインダーと表示パネルに  が表示され、ストロボ撮影時に赤目緩和ランプが点灯してストロボ撮影時に起こりやすい赤目現象を緩和する赤目緩和撮影がセットされます。

赤目緩和撮影を設定してシャッターボタンを半押しすると、表示パネルとファインダー内に赤目緩和ランプの点灯を示すバーインジケーターが約 1.5 秒間表示されます。この表示が消えてからさらにシャッターボタンを押しして撮影します。


- ・写される人が赤目緩和ランプを見るようにすると効果がありますが、効果の度合いには個人差があります。
- ・イメージゾーンではストロボボタンを押すとストロボが上がる代わりに赤目緩和撮影がセットされます。
- ・もう一度ストロボボタンを押すと赤目ランプの点灯は解除されます。



5. セルフタイマー

セルフタイマーを使用するときは、三脚などでカメラをしっかり固定してください。

- ・セルフタイマー撮影では、シャッターボタンを押してから約 10 秒後にシャッターが切れます。

1 表示/パネルに  が表示されるまで巻き上げモード切り換え/セルフタイマー・リモコンボタンを押します。

2 ファインダーをのぞきながら構図を決め、シャッターボタンを半押ししてピントと露出を確認します。

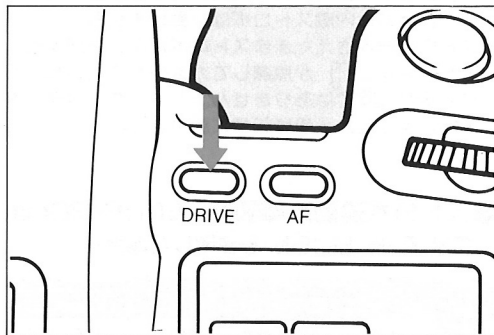
3 さらにシャッターボタンを押します。

- ・ブザー音がなり、約 10 秒後にシャッターが切れます。シャッターが切れる 2 秒前になるとセルフタイマー表示ランプが点灯します。

4 セルフタイマー撮影後、巻き上げモード切り換え/セルフタイマー・リモコンボタンを押してセルフタイマーを解除します。

- ・シャッターが切れる前に巻き上げモード切り換え/セルフタイマー・リモコンボタンを押すとその時点でセルフタイマー・リモコンは解除されシャッターは切れません。

セルフタイマー・リモコン撮影をセットしたときに近くにインバーター式蛍光灯があると、蛍光灯の影響でカメラが誤作動することがあります。この場合はカメラを蛍光灯から遠ざけて使用してください。



ファインダーから目を離してシャッターボタンを押すと、ファインダーから入った光によって露出が狂うことがあります。アイカップを取り外して、ストラップについているアイピースカバーを接眼部に取り付けてからシャッターボタンを押してください。

6. クォーツデート

このカメラには 2019 年までのオートカレンダーが組み込まれているクォーツデートがついています。撮影と同時に日付や時刻を写真に写し込むことができます。

1) 日付/時刻の写し込み

クォーツデート表示パネルには年月日が表示されています。そのまま撮影すると写真に日付が写し込まれます。

表示切り換えボタン (MODE) を押すと写真に写し込まれる表示が次のように変わります。

〈年 月 日〉表示 9 1 10 15 (1991 年 10 月 15 日)



〈日 時 分〉表示 15 16:45 (15 日 16 時 45 分)



〈ハイフン〉表示 ----- (写し込み無し)



〈月 日 年〉表示 10 15'91 (10 月 15 日 1991 年)



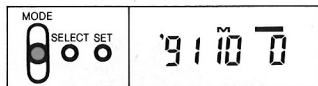
〈日 月 年〉表示 15 10'91 (15 日 10 月 1991 年)

- ・ M は月を表します。
- ・ 一 は写し込みを確認するマークです。シャッターを切ると点滅して日付/時刻の写し込みを知らせます。
- ・ クォーツデート表示パネルの表示が薄くなったら、クォーツデート用電池を交換してください (→35 頁)。

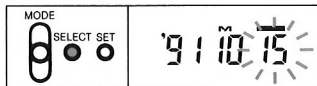


2) 日付/時刻の修正

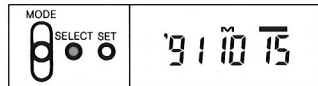
海外旅行などで日付や時刻を変更する必要があるときは次のようにします。



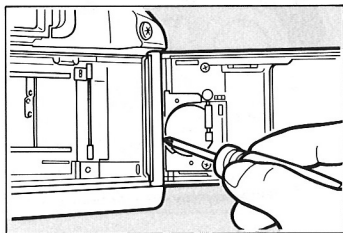
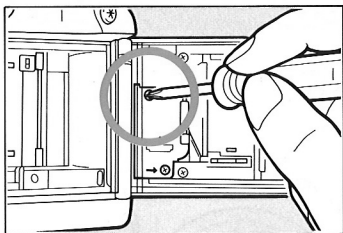
- 1** 表示切り換えボタン (MODE) を押して、クォーツアート表示パネルに修正する日付 (時刻) を表示します。



- 2** 修正位置選択ボタン (SELECT) を押して修正する数字を点滅させ、数値セットボタン (SET) を押して正しい数字をセットします。



- 3** 点滅している数字がなくなるまで、修正位置選択ボタン (SELECT) を押しします。点滅している数字がなくなれば、セットは完了です。



クオーツデート用電池の交換

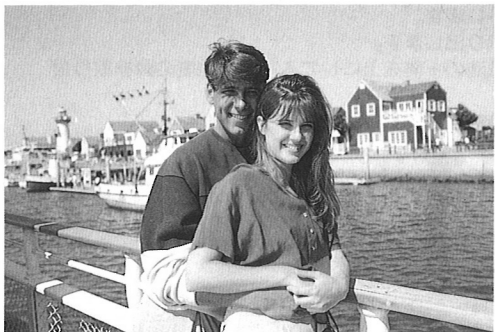
クオーツデート表示パネルの表示が薄くなったら電池を交換してください。電池の寿命は約3年です。クオーツデート用の電池はリチウム電池 CR2025、1個です。

- (1) 背蓋を開け、図に示す2本のねじをゆるめ、電池室の蓋を取り外します。
- (2) 電池を取り出します。
- (3) 新しい電池の+側を上にして入れ、電池室の蓋を取り付けます。
- (4) 日付と時刻をセットしなおします。

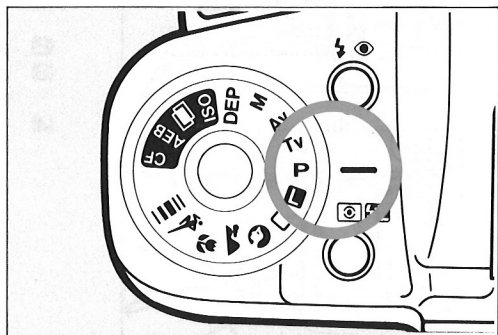
[2] クリエイティブゾーンでの撮影

モードダイアルのクリエイティブゾーンには、被写体や撮影目的に合わせて自由に選べる5通りの撮影方式があります。

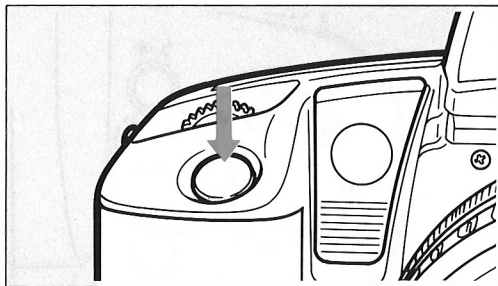
1. P (インテリジェントプログラム AE)



全自動同様、気軽に撮影するときにセットします。全自動と異なるのは AF 方式やフィルム巻き上げ方式を自分でセットできる点です。被写体の明るさに応じて撮影時のシャッター速度と絞り値の組み合わせを自動セットします。



- 1 モードダイアルを P にセットします。
- 2 被写体にピントを合わせ露出表示を確認します。



3 さらにシャッターボタンを押して撮影します。

露出表示の確認



- シャッター速度の 4000 と使用レンズの最小絞り値が点滅する場合は露出オーバーです。ND フィルターを使用してください。



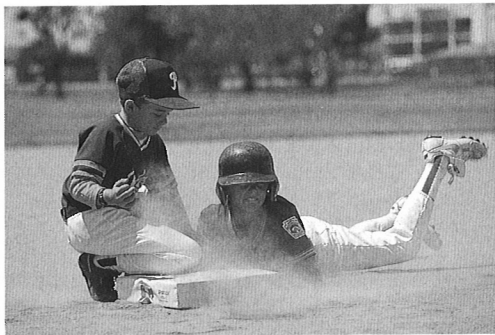
- シャッター速度の 30 と使用レンズの開放絞り値が点滅する場合は露出アンダーです。ストロボを使用してください。

プログラムシフト

インテリジェントプログラム AE および深度優先 AE による撮影の場合、セットされたシャッター速度と絞り値の組み合わせ(プログラム)を、同じ露出のままでも自由に変えることができます。これをプログラムシフトと呼びます。シャッターボタンを半押ししてから、希望するシャッター速度または絞り値が出るまで電子ダイヤルを回します。

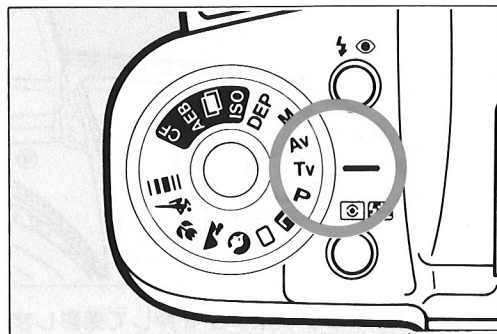
- 撮影後プログラムシフトは自動的に解除され、元のプログラムに戻ります。
- 内蔵ストロボを使用するとプログラムシフトできません。

2. Tv (シャッター優先 AE)

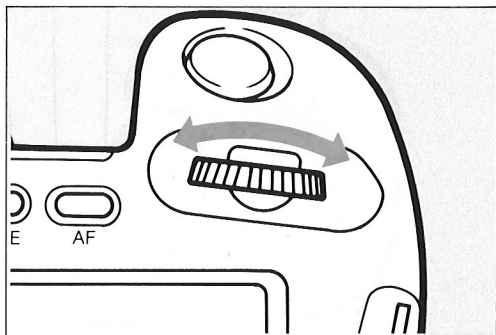


動きを表現するときにセットします。シャッター速度をセットすると、被写体の明るさに応じて適正露出に必要な絞り値が自動的にセットされます。

シャッター速度を速くすると動いている被写体をシャープに写し止めることができ、逆にシャッター速度を遅くすると動きをブラして動感を出したり流し撮りによる流動感を表現することができます。

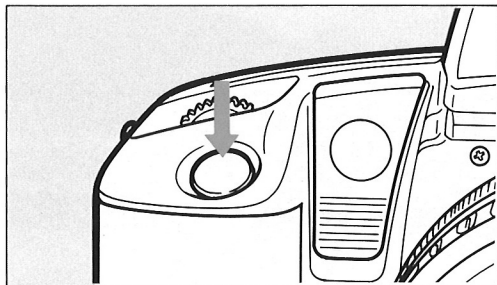


1 モードダイヤルをTvにセットします。



2 電子ダイヤルを回して希望するシャッター速度をセットします。

3 被写体にピントを合わせ露出表示を確認します。



4 さらにシャッターボタンを押して撮影します。

露出表示の確認



- ・使用レンズの開放絞り値が点滅する場合は露出アンダーです。点滅が止まるまで電子ダイヤルでシャッター速度を遅くします。



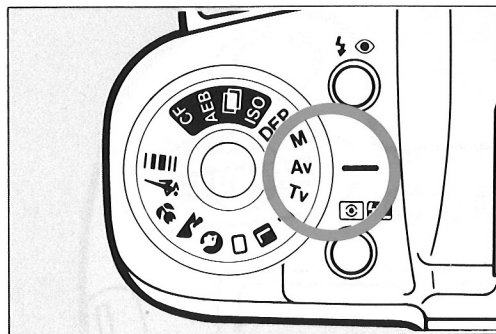
- ・使用レンズの最小絞り値が点滅する場合は露出オーバーです。点滅が止まるまで電子ダイヤルでシャッター速度を速くします。

3. Av (絞り優先 AE)

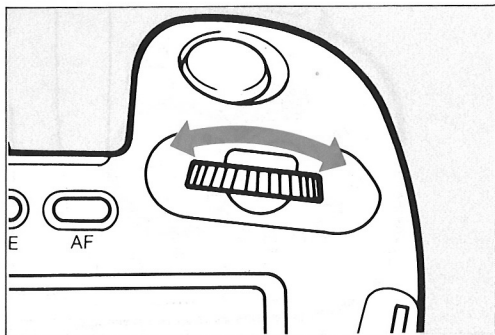


背景のボケ具合をコントロールして撮影するとき
にセットします。絞り値をセットすると、被写体
の明るさに応じて適正露出を得るためのシャッタ
ー速度が自動的にセットされます。

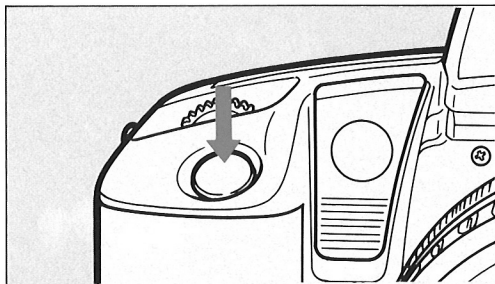
絞り値を小さくすると背景をボカした美しいポー
ートレートを撮ることができ、逆に絞り値を大き
くすると奥行きのある風景などをすみからすみま
ではっきり写すことができます。



1 モードダイヤルを Av にセットします。



- 2 電子ダイヤルを回して希望する絞り値をセットします。
- 3 被写体にピントを合わせ露出表示を確認します。



- 4 さらにシャッターボタンを押して撮影します。

露出表示の確認

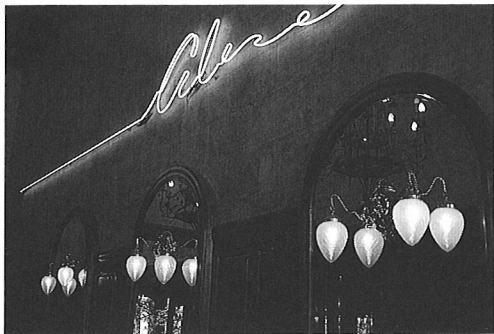


- ・シャッター速度の 30" が点滅する場合は露出アンダーです。点滅が止まるまで電子ダイヤルで絞り値を小さくします。



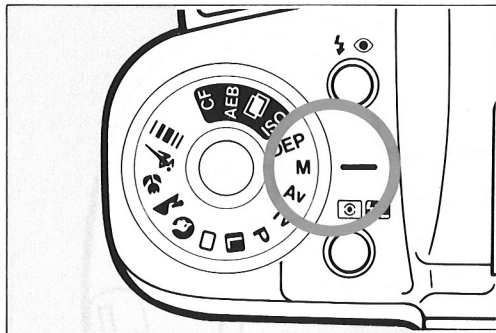
- ・シャッター速度の 4000 が点滅する場合は露出オーバーです。点滅が止まるまで電子ダイヤルで絞り値を大きくします。

4. M (マニュアル)

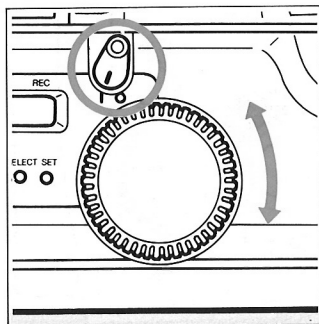


シャッター速度と絞り値の両方を任意に決めて撮影するときにセットします。意図的に露出を変えて撮影するときに使用します。電子ダイヤルでシャッター速度を、サブ電子ダイヤルで絞り値を設定します。

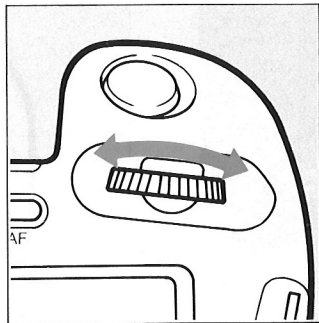
- ・部分測光 (→ 28 頁) との組み合わせによるマニュアル露出撮影をおすすめします。



- 1 モードダイヤルを M にセットします。



- 2 サブ電子ダイヤルスイッチを I にセットします。
- 3 電子ダイヤルを回し、任意のシャッター速度をセットします。



- 4 サブ電子ダイヤルを回し、任意の絞り値をセットします。
- 5 被写体にピントを合わせ、露出表示を基準にして露出を決めます。
- 6 さらにシャッターボタンを押して撮影します。

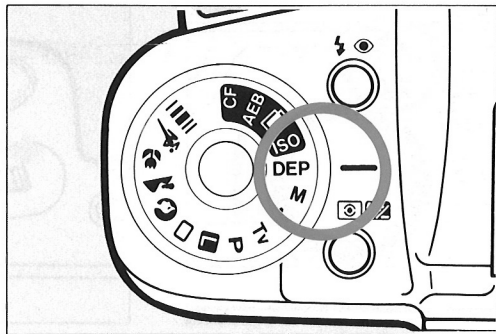
露出レベルの確認

- ▷ : 露出オーバーです。
 ◁ が表示されるまで電子ダイヤルかサブ電子ダイヤルを操作します。
- ◁ : 適正露出です。露出を決定するときはこの位置を基準にします。
- ▷ : 露出アンダーです。
 ◁ が表示されるまで電子ダイヤルかサブ電子ダイヤルを操作します。

5. DEP (深度優先 AE)



希望する被写体全てにピントを合わせて撮影するときにセットします。風景写真や多人数での記念写真などを撮るときに使用します。

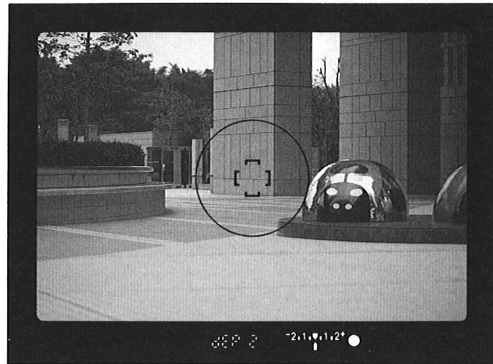


1 モードダイヤルを DEP にセットします。



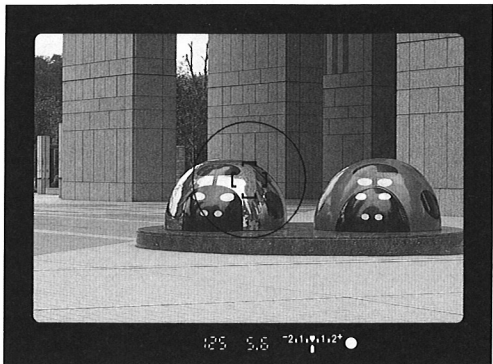
2 AF フレームを被写体の近点に合わせて、シャッターボタンを押します。

- ファインダー内に dEP 1 と表示されたらシャッターボタンから指を離します。



3 AF フレームを被写体の遠点に合わせて、シャッターボタンを押します。

- ファインダー内に dEP 2 と表示されたらシャッターボタンから指を離します。



4 構図を決めシャッターボタンを半押しして露出表示を確認します。

- 遠点から近点までを被写界深度内に入れるために必要な絞り値とそれに対応したシャッター速度が表示パネルとファインダー内に表示されます。
- 電子ダイヤルでセットされたシャッター速度と絞り値の組み合わせを変えることができます(→ 37 頁)。

5 さらにシャッターボタンを押して撮影します。

- 深度優先 AE を操作途中で解除するときは、モードダイヤルのセットを DEP 以外にします。
- ズームレンズを使用しているときは、1 点目のピントを合わせた後で焦点距離を変えないでください。
- 深度優先 AE ではストロボ併用撮影はできません。併用した場合はインテリジェントプログラム AE でのストロボ使用と同じになります。

露出表示の確認

- 絞り値が点滅する場合は、希望どおりの被写界深度が得られません。このような場合にはレンズを広角にするか被写体から離れて再度「手順 2」から「手順 3」の操作をしてください。



III 応用編

撮影目的や撮影状況に合わせ EOS を細かく調整して想像的な写真を撮ることができます。

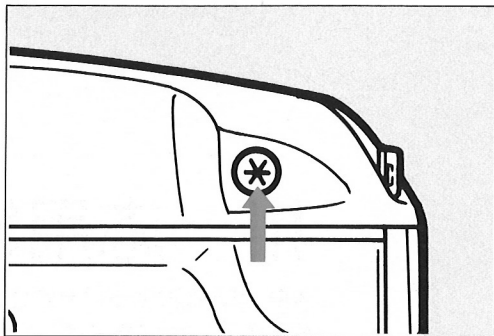
- ・ 応用編で説明している各機能はモードダイヤルのイメージゾーンでは使用できません。

1. AE ロック

被写体と背景とのコントラストが極端に強い場合や、画面上に反射するものがある場合などに AE ロックをご利用下さい。AE ロックを利用すれば構図を変えても露出は変わりません。

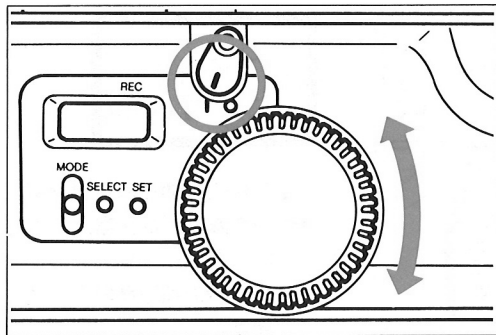
AE ロックボタンを押すとファインダー内に*が表示され露出がロックされます。*が表示されている間は露出がロックされています。AE ロックボタンを離してもかまいません。

- ・ AE ロックするときにはシャッターボタンから指を離してください。



2. 露出補正

AE 撮影時の露出を撮影意図に合わせてサブ電子ダイアルで補正することができます。補正量は1/2段ステップで、+2段から-2段の範囲です。

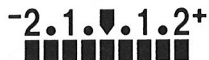


- 1 サブ電子ダイアルスイッチを **I** にセットします。
- 2 被写体にピントを合わせ露出表示を確認します。



- 3 露出表示を見ながらサブ電子ダイアルを回し希望する補正量をセットします。

・表示パネルとファインダー内に補正量が表示されます。+はオーバー側への補正、-はアンダー側への補正です。



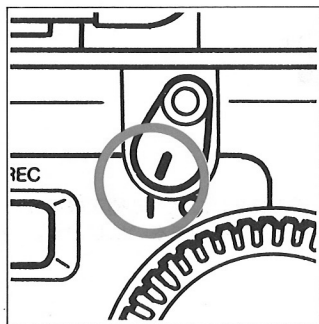
- 4 撮影します。

・露出補正の解除は「手順 3」に従って補正量を 0 に戻し、サブ電子ダイアルスイッチを **O** にします。

3. 内蔵ストロボの調光補正

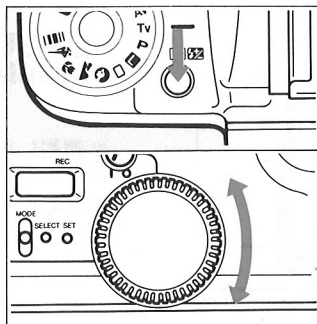
内蔵ストロボの自動調光レベルを補正することができます。補正量は1/2段ステップで+2段から-2段の範囲です。

- ・調光補正表示が出ていても、本体より外付けストロボの調光補正はできません。



- 1** サブ電子ダイヤルスイッチをIにセットします。

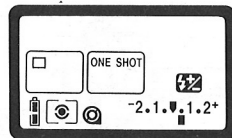
* ストロボ調光補正と露出補正を併用することができます。



- 2** ストロボ調光補正選択ボタンを押しながらサブ電子ダイヤルを回し希望する補正量をセットします。

- ・表示パネルに  が表示されます。

- ・表示パネルに調光補正量が表示されます。+はオーバー側への補正、-はアンダー側への補正です。



- 3** ストロボ調光補正選択ボタンを離すと補正量が設定され、表示パネルとファインダー内の補正量表示が消えます。

- ・調光補正量を確認するときはストロボ調光補正選択ボタンを押します。

- 4** ストロボ撮影します。

- ・ストロボ調光補正の解除は「手順2」に従って補正量を0に戻し、サブ電子ダイヤルスイッチをOにします。

4. AEB (オートブラケティング)

AEおよびマニュアル撮影時にオートブラケティング(AEB:Auto Exposure Bracketing/自動露出ずらし)によって露出を補正しながら撮影することができます。

オートブラケティングは1度シャッターを切るだけでカメラが自動的に露出をずらして3枚の写真を連続撮影します。適正露出値から1/2段ステップで、+2段から-2段の範囲で露出をずらすことができます。

AEB撮影はわずかな露出の変化でも写真の雰囲気が大きく変わるリバーサル(スライド)フィルムをご使用のときに特に有効です。

- ・3枚の自動連続撮影はフィルム巻き上げが1枚撮りにセットされているときにも行なわれます。

(-1.0)

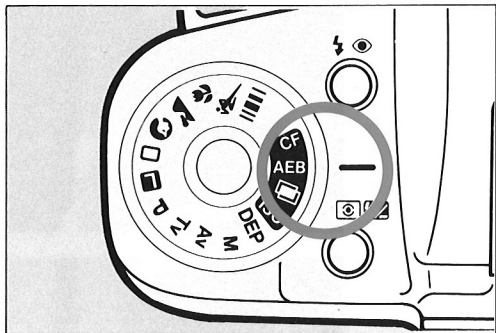


(±0)



(+1.0)

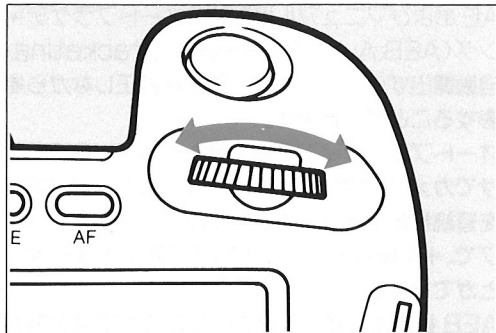




1

モードダイヤルをAEBにセットします。

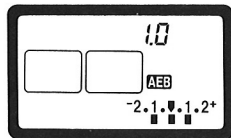
- ・表示パネルにAEBが表示されます。



2

電子ダイヤルを回して、希望する露出ずらし量をセットします。

- ・表示パネルには数値と補正レベル表示によって露出をずらす量が表示されます。例えば0.5をセットすると、露出アンダー（-0.5段）/適正（±0段）/露出オーバー（+0.5段）の順で露出を変えます。
- ・ファインダー内にも補正レベルが表示されます。



3 モードダイヤルを使用する撮影モードにセットして撮影します。

- ・ AEB の解除は「手順 1」「手順 2」に従って露出ずらし量を 0 に戻します。

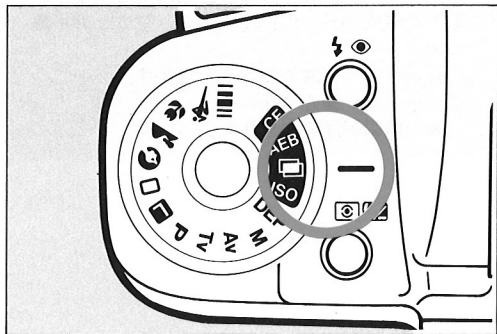
- ・ バルブ撮影とストロボ撮影には併用できません。
- ・ フィルムを交換すると AEB は自動的に解除されます。
- ・ AEB 撮影時にサブ電子ダイヤルで露出を補正すると、表示パネルに正しく表示されませんが撮影は正しく行なわれます。


AEB における露出補正は次のように行なわれます。

- ①インテリジェントプログラム AE
シャッター速度、絞り値ともに変わります。
- ②絞り優先 AE、深度優先 AE、マニュアル露出
シャッター速度のみが変わります。
- ③シャッター優先 AE
絞り値のみが変わります。

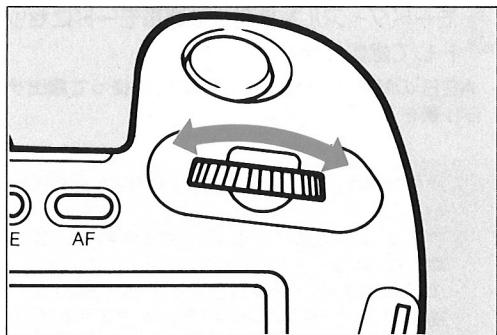
5. (多重露出)

多重露出を使用すれば、同一フィルム面上に画像を重ねて撮影できます。多重露出回数は1度の電子ダイヤル操作で9回までセットできます。

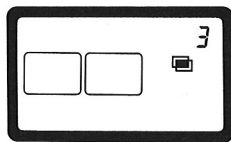


1 モードダイヤルを  にセットします。


・表示パネルに  が表示されます。



2 電子ダイヤルで多重露出回数（3回の多重露出なら3）をフィルム枚数計にセットします。



3 撮影します。

- 多重露出撮影中は表示パネルの  が点滅します。
- 撮影の途中で多重露出を解除するときは「手順1」「手順2」に従ってフィルム枚数計を空白にします。
- セットした多重露出回数の撮影が終了すると、フィルムは自動的に次のコマに巻き上げられ、多重露出のセットは解除されます。

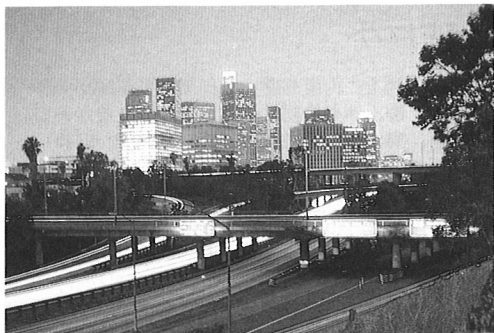
撮影ヒント

同一画面上に何度も露出を与える多重露出撮影では、露出値を最初に補正しておく必要があります。露出補正を併用してください(→ 49 頁)。

多重露出の回数	補正量の目安
2回	-1.0
3回	-1.5
4回	-2.0

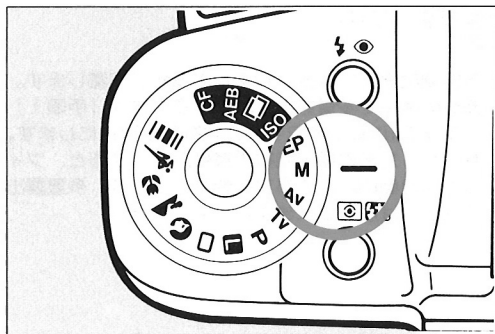
- この補正量はあくまでも一般的な目安です。補正量は撮影状況によって変わりますので、あらかじめ撮影データを求めておいてください。

6. バルブ（長時間露出）撮影

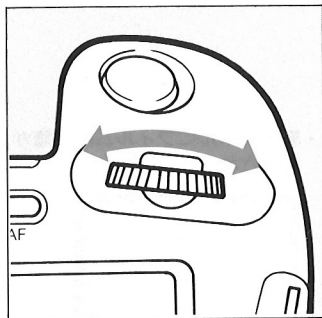


シャッターボタンを押している間シャッターが開いたままになります。夜景や花火など長時間の露出が必要なときにご使用ください。

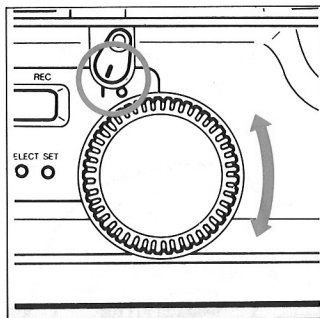
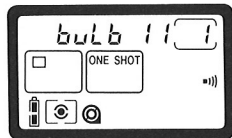
バルブ撮影ではカメラが動かないよう三脚を使用してカメラをしっかり固定してください。



- 1 モードセレクターダイヤルをMにセットします。



- 2** 電子ダイヤルを回してシャッター速度を変え、buLb (バルブ) にセットします。30"の次が buLb です。



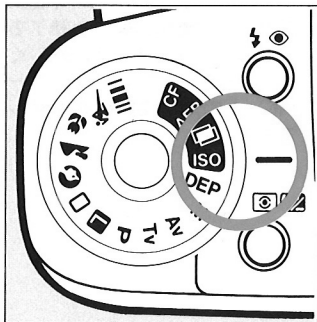
- 3** サブ電子ダイヤルスイッチを I にセットします。
- 4** サブ電子ダイヤルを回し、希望する絞り値をセットします。

5 撮影します。

- ・ファインダー内の表示は消えます。
- ・リモートコントローラー RC-1 でバルブ撮影の開始と終了を行なうことができます。詳しくは、リモートコントローラー RC-1 の使用説明書を参照してください。

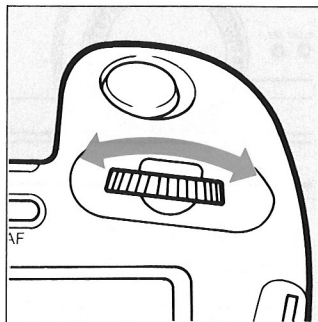
7. フィルム感度の手動セット

DX マークのないフィルムを使用するときや、任意のフィルム感度をセットするときは、次の手順に従って手動でフィルムの感度をセットします。セットできる ISO の範囲は 6 ~ 6400 です。



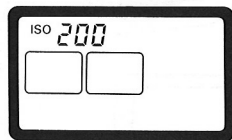
1 モードダイヤルを ISO にセットします。

- ・表示パネルに ISO が表示されます。



2 電子ダイヤルを回してフィルム感度値をセットします。

- ・表示パネルにフィルム感度値が表示されます。

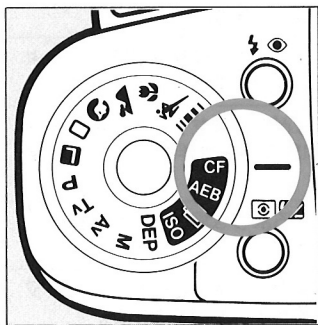


3 モードダイヤルを撮影モードにセットします。

- ・フィルム感度を手動でセットした後で DX マーク付きのフィルムをカメラにセットするとそのフィルムの感度がセットされます。

8. カスタム機能 (CF)

7種類のカスタム機能の中から用途にあった機能をカメラにセットして、撮影者にあったEOSにつくり変えができます。

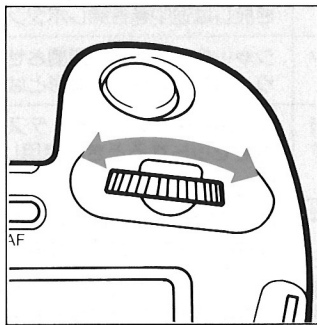


1 モードダイヤルをCFにセットします。

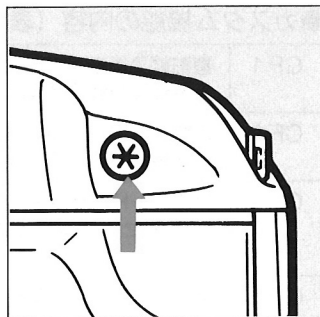
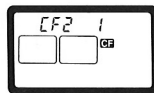
- ・表示パネルにCFが表示されます。

- ・ AEロック/カスタム機能選択ボタンを押すごとに表示パネルには0と1が交互に表示されます。

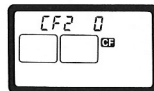
- 1 : 選択したカスタム機能をセットする。
- 0 : 選択したカスタム機能を解除する。



2 電子ダイヤルでカスタム機能の番号を選択します。



3 AEロック/カスタム機能選択ボタンを押し、表示パネルの数字を1にしてカスタム機能をセットします。








4 モードダイヤルのセットを戻します。






●カスタム機能の内容（表示パネルの数字を1にセットしたとき）

CF 1	撮影終了後のフィルムの自動巻き戻しを解除する。	フィルムが終了しても自動巻き戻しを開始しません。フィルムの巻き戻しは途中巻き戻しボタンを押して行います。
CF 2	内蔵ストロボの同調タイミングを後幕シンクロにする。	シャッターの後幕に同調させて内蔵ストロボを発光させることにより、通常のストロボ撮影とは異なった効果を得ることができます。
CF 3	DXコード付きフィルムの自動感度セット機能を解除する。	フィルム感度の補正や、テスト撮影などから得たフィルムの実効感度をセットするときに使用します。ISO感度は手動でセットしません。
CF 4	オートフォーカス時にAF補助光を投光しない。	同一の被写体を多数のカメラが撮影するような場合に、AF補助光が他のカメラに写り込むのを防ぎます。
CF 5	AEロック/カスタム機能選択ボタンを被写界深度確認ボタンに変更する。	オートフォーカスでピントと露出を決定した後、AEロック/カスタム機能選択ボタンで被写界深度を確認することができます。
CF 6	電子音を解除する。	合焦時およびセルフタイマー作動時の電子音が鳴らなくなります。
CF 7	セルフタイマー/リモコン撮影時、ミラーアップさせる。	セルフタイマー/リモコン撮影時に、シャッターボタンの2段目を押したとき、先にミラーがアップし、10秒後に露光が開始されます。


1. 露出警告一覧表

撮影モード	警告表示 (点滅)	意味	処置
P (インテリジェントプログラム AE)	 シャッター速度 30" と使用レンズの開放絞り値	被写体が暗すぎます。	ストロボを使用してください。
	 シャッター速度 4000 と使用レンズの最小絞り値	被写体が明るすぎます。	減光用の ND フィルターを使用してください。
TV (シャッター優先 AE)	 使用レンズの開放絞り値	露出アンダーになります。	電子ダイヤルでシャッター速度を遅くしてください。
	 使用レンズの最小絞り値	露出オーバーになります。	電子ダイヤルでシャッター速度を速くしてください。
Av (絞り優先 AE)	 シャッター速度 30"	露出アンダーになります。	電子ダイヤルで絞り値を小さくしてください。
	 シャッター速度 4000	露出オーバーになります。	電子ダイヤルで絞り値を大きくしてください。
DEP (深度優先 AE)	 セットされた絞り値	希望する被写界深度が得られません。	1) 被写体からできるだけ離れて再度操作してください。 2) ズームレンズを使用している場合は広角側にセットしてください。
	 シャッター速度 30" と使用レンズの開放絞り値	被写体が暗すぎます。	ストロボを使用してください (インテリジェントプログラム AE として作動します)。
	 シャッター速度 4000 と使用レンズの最小絞り値	被写体が明るすぎます。	減光用の ND フィルターを使用してください。

ストロボ撮影時の露出警告

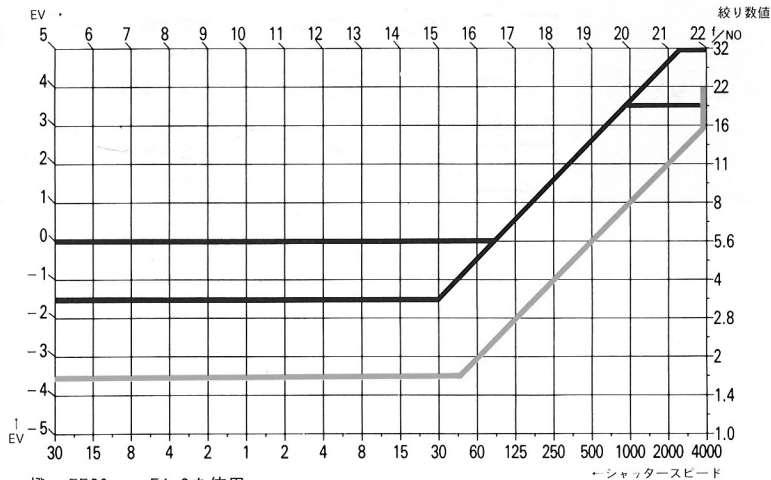
撮影モード	警告表示 (点滅)	意味	処置
P(インテリジェントプログラムAE)	 日中シンクロ撮影時、シャッター速度 1/125 と使用レンズの最小絞り値	全体が露出オーバーになります。	ストロボを使わない撮影をおすすめします。
TV(シャッター優先AE)	 使用レンズの最小絞り値	全体が露出オーバーになります。	ストロボを使わない撮影をおすすめします。
	 使用レンズの開放絞り値	背景が露出アンダーになります。	被写体は適正露出です。
AV(絞り優先AE)	 シャッター速度 1/125	全体が露出オーバーになります。	電子ダイヤルで絞り値を大きくしてください。
	 シャッター速度 30"	背景が露出アンダーになります。	電子ダイヤルで絞り値を小さくしてください。

2. プログラム線図

EOS は使用レンズの特性（開放および最小絞り値、焦点距離など）に合わせて最適なプログラム線図を選びます。自動的にセットされたシャッター速度が使用レンズの1/焦点距離マイナス0から0.5段の値になるとファインダー内に （手振れ警告）が表示されます。これは一般に、1/焦

点距離（秒）のシャッター速度が手持ち撮影の限界とされているためです。従ってプログラム線図は使用するレンズによってすべて異なりますが、ここでは代表的なレンズを装着したときのプログラム線図を掲載しています。

(プログラム線図)

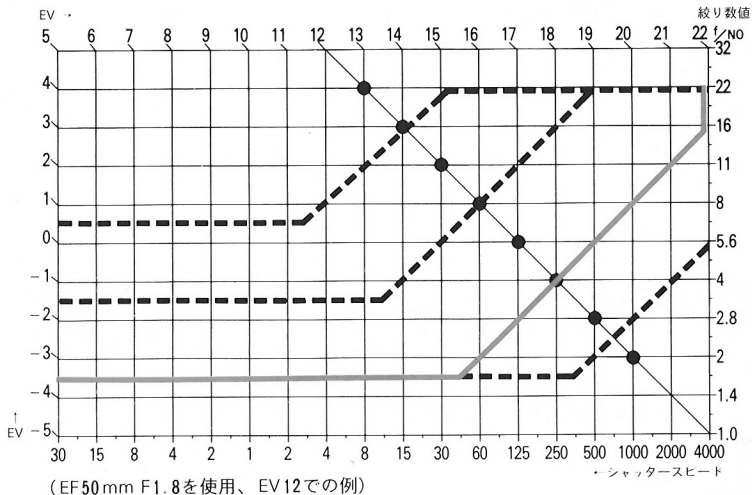


橙：EF50mm F1.8を使用

黒：EF28-80mm F3.5-5.6 USMを使用

(プログラムシフト特性図)

- ・ 図中の●はプログラム線図をシフトして得られるシャッター速度と絞りの組み合わせです。



4. 機能組み合わせ一覧

1) イメージセレクトの機能組み合わせ

撮影モード	オートフォーカス		フィルム巻き上げ		測光方式		内蔵ストロボ
	ONE SHOT	AISERVO	一枚撮り	連続撮影	評価測光	部分測光	
□ (全自動)	(自動切り換え)		●		●		自動発光
👤 (ポートレート)	●			●	●		自動発光
🏞️ (風景)	●		●		●		OFF
🌸 (クローズアップ)	●		●			●	自動発光
🏃 (スポーツ)		●		●	●		OFF

2) AF モードとフィルム巻き上げ

フィルム巻き上げ	ONE SHOT	AI SERVO
□ (一枚撮り)	AF完了まではレリーズ不可、AF完了と同時にAFロック(ピント位置ロック)およびAEロック(撮影前に露出の値を記憶)	AFは被写体の動きに合わせて追従、露出はシャッターが切れる瞬間に決定
📷 (連続撮影)	上と同じ条件で連続撮影となる(秒間最高約3コマ)	上と同じ条件で連続撮影となる(秒間最高約2.5コマ)

4. アクセサリー（別売）

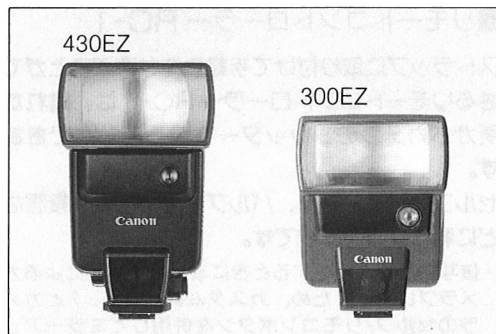
■専用スピードライト

専用スピードライトとして、アクセサリーシューに取り付けて使用するクリップオンタイプの大光量ズームストロボ 430 EZ（最大ガイドナンバー 43/ISO 100・m）、300 EZ（最大ガイドナンバー 30/ISO 100・m）などがあります。特に 430 EZ は調光補正撮影、マルチ発光撮影、後幕シンクロ撮影、バウンス撮影、スローシンクロ撮影など高度な撮影が可能です。

マクロレンズを使用してクローズアップ撮影をするようなときはスピードライト ML-3 を併用すると便利です。

これらの専用ストロボはいずれもカメラを全自動にセットしておけば、フラッシュの充電完了と同時に同調シャッター速度は 1/60～1/125 秒の範囲内で自動的にセットされます。さらに調光絞り値も自動的にセットされます。

- ・詳しくはスピードライトの使用説明書をご覧ください。



このカメラにはキャノンの EOS 専用ストロボを使用されることをおすすめします。特に他社の特定のカメラ専用とされているストロボ（一般にホットシューに複数の接点を持つ）およびストロボ用付属品を使用すると、カメラが正常な機能を発揮しなかったり、故障の原因となることがありますのでご注意ください。

■リモートコントローラー RC-1

ストラップに取り付けて手軽に持ち運ぶことができるリモートコントローラー RC-1は、離れた所からカメラのシャッターを切ることができます。

セルフタイマー撮影、バルブ撮影、接写や複写などに利用すると便利です。

- ・接写や複写などをするとときにミラーの作動によるカメラブレを防ぐため、カスタム機能 No. 7 とカメラのセルフ/リモコンボタンを併用してミラーアップさせることができます (→60頁)。



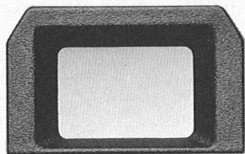
■延長グリップ GR-70

ハンドストラップがついている延長グリップは、カメラのグリップを大型化してホールド性を高めます。



■視度補正レンズ

視度補正レンズEを取り付ければ、近視、遠視の方でも眼鏡なしで撮影することができます。カメラ本体の視度は-1ジオプターですが、交換用視度補正レンズとして10種類が用意されています。実際にカメラに取り付けてファインダーを覗いた上でお求めください。



■レンズフード

レンズフードは撮影に有害な光線をカットするのに有効です。

- ・フードを収納するときは逆向きに取り付けます。

■フィルター

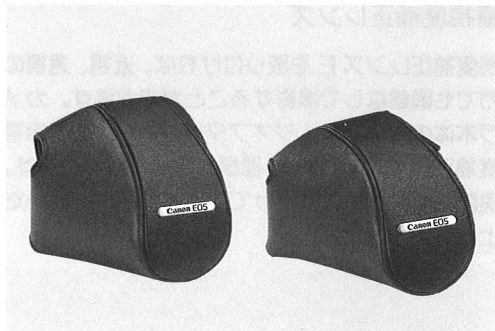
フィルターは撮影に有害な光線をカットしたり特殊な効果を得るときにレンズの先端にねじ込んで使用します。

- ・フィルターを2枚以上重ねて使用しないでください。
- ・偏光フィルターを使用するときはキヤノン円偏光フィルターPL-Cをお使いください。

■カメラケース

カメラを保護するためのカメラケースとして、レンズを付けたまま収納することができる以下の2種類があります。

- ・ セミハードケースL : EF 28-80 mm F 3.5-5.6 USM、EF 35-80 mm F 4-5.6、EF 35-105 mm F 4.5-5.6ズームレンズを付けたまま収納することができます。
- ・ セミハードケースLL : EF 35-135 mm F 3.5-4.5 USMズームレンズを付けたまま収納することができます。



取り扱い上のご注意

■お手入れの方法

どんなに優れたカメラでも適切な手入れをしなければ、その性能を十分に発揮できません。特に水分や砂がカメラについたままにならないよう、日常の押手入れには十分気をつけてください。

手入れ用具：ブローブラシ、クリーナー液、クリーニングペーパー、高分子クロスなど

1) レンズとファインダー接眼部

ブローブラシで砂やほこりを吹き払い、クリーナー液を含ませたクリーニングペーパーで軽く拭き取ってください。

2) カメラの反射ミラー、フォーカシングスクリーン

ブローブラシで吹き払うだけにしてください。どうしても拭かなければならないときは、最寄りのカンパニーサービスセンターにお持ちください。

3) フィルム室内

フィルムカスなどが付きやすいので、常にゴミをブローブラシで吹き払うようにしてください。ゴミや砂があるとフィルムを傷つける原因となります。

4) レール面や圧着板

クリーナー液とクリーニングペーパーを使用して拭いてください。

- ・シャッター幕には絶対に手を触れないようご注意ください。
- ・海辺で使用した後は、カメラに塩分が付着していますので特によく拭いてください。
- ・エアポンベタイプのプロワーのご使用はおすすめできません。

■保管の方法

カメラケースを外し、湿気やほこりのないところに保管してください。また、カメラは長期間使用しないでおくとカビや故障の原因となることがありますので、ときどきシャッターを切るようにしてください。特に保管する場合、次のような場所は避けてください。

- 1) 車のトランクやリヤウィンドーなどは高温になり、故障の原因となることがあるため避けてください。

2) 実験室などのような薬品を扱う場所はサビ・腐蝕などの原因になるため避けてください。同様にタンクの中なども避けてください。

長期間使用しなかったカメラは、各部を点検してから使用してください。

長期間使用しなかった後や、海外旅行など大切な撮影の前には、各部の作動を最寄りのキヤノンサービスセンター、またはご自身でチェックしてからご使用ください。

■その他の注意事項

1) 表示パネルについて

カメラの表示パネルは液晶を使用しています。液晶はその性質上、通常の使用で5年程度経過すると表示が薄くなり読みにくくなることがあります。その場合は最寄りのキヤノンサービスセンターで液晶の交換をご用命ください(有料)。

なお、液晶の特性で低温下で表示反応がやや遅くなったり、60°Cぐらいの高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻れば正常に表示されます。

2) 空の電池マークの点滅について

電池容量が極端に低下した場合や、カメラが誤動作・故障した場合は、表示パネル上に空の電池マークが点滅することがあります。以下の操作を行なってください。

(1)電池を入れ直して、電池容量を確認してください。
もし電池容量が低下していれば電池を交換してください。

(2)一度シャッターを切ります。

以上の操作を行って、空の電池マークの点滅が消えれば、正常に撮影を続けることができます。しかし、この操作を何度繰り返しても空の電池マークの点滅が消えないときはカメラの故障です。最寄りのキヤノンサービスセンターにお持ちください。

3) リチウム電池について

カメラはリチウム電池/パック(2CR5、1個)を正しく入れてはじめて作動します。次のようなときは、まず電池電圧をチェックしてください。

(1)電池を交換したとき

(2)長期間カメラを使用しなかったとき

(3)シャッターが切れなくなったとき

(4) 寒冷地で撮影するとき

(5) その他、大切な写真を撮るときなど

- ・電池をカメラに入れるときは、電池接点の汚れや指紋などをよく拭き取ってください。そのまま入れると接触不良や腐蝕の原因となることがあります。
- ・電池の分解や充電、高温下での放置、および接点をショートさせたり火の中に投げ入れることは、危険ですので絶対にしないでください。
- ・この電池は低温特性にも優れていますが、0°C以下ではやや電池性能が低下します。寒冷地でご使用になるときは予備の電池を用意し、ポケットなどに入れ保管しながら交互に使用することをお勧めします。

4) 電圧の低下とカメラの作動について

表示パネルに電池マークが点滅しても、シャッターが切れば写真は適正露出になります。ただし、電池容量が低下しているため、自動巻き上げや自動巻き戻しができないことがあります。また、巻き上げ/巻き戻し途中でカメラが停止してしまったときは表示パネル上でフィルムマークが点滅して警告します。巻き戻しは新品電池に交換した後、フィルム巻き戻しボタンを押せば継続して作動します。

5) 電子接点について

レンズを外したときは、電子接点やレンズ面を傷つけないように、取り付け面を上にして置いてください。

6) 汎用ストロボを使用するとき

(1) 汎用小型ストロボは1/125秒以下で同調します。

(2) スタジオ用大型ストロボは1/60秒以下で同調します。

- ・汎用ストロボをご使用の場合は正しく同調するかどうかあらかじめ確認してからご使用ください。

7) 水にぬれたとき

このカメラは防水構造になっていませんので雨天や水中では使用できません。万一水にぬれてしまったときは、早目に最寄りのキヤノンサービスセンターにご相談ください。また水滴がついたときは乾いたきれいな布でよく拭きとってください。

- ・カメラには高電圧回路が内蔵されています。危険ですので絶対に自分で分解しないでください。

主要性能表

型式：モータードライブ・ストロボ・オートテート内蔵
35mm フォーカルプレーシャッター AF/AE 一眼レフカメラ

画面サイズ：24×36mm

使用レンズ：EFレンズ群（開放測光にて使用）

レンズマウント：キヤノン EF マウント（完全電子制御方式）

ファインダー：ペンタプリズム使用のアイレベル式

視野率：上下左右とも 90%

倍率：0.75 倍（50mm レンズ付き無限遠状態で）

標準視度：-1 ジョプター（アイポイント 20mm）

フォーカシングスクリーン：固定式、AF フレーム付き全面マットスクリーン

ミラー：クイックリターン式ハーフミラー

測光方式：受光素子に 6 分割 SPC 使用の TTL 開放測光（絞り込み測光は不可）。

①評価測光

②部分測光（測光範囲はファインダー画面の約 6.5%）

③中央部重点平均測光

撮影モード：

①インテリジェントプログラム AE（シフト可）

②シャッター優先 AE

③絞り優先 AE

④深度優先 AE（シフト可）

⑤全自動

⑥アートコードモード

⑦イメージセレクト機能（4 種内蔵）

⑧ストロボ AE（内蔵ストロボおよび専用スピードライトを使用して A-TTL および TTL プログラムフラッシュ AE）

⑨マニュアル

手振れ警告：全自動、インテリジェントプログラム AE、絞り優先 AE、深度優先 AE 時、イメージセレクト、アートコードモード時に作動。自動的にセットされたシャッター速度が使用レンズの 1/焦点距離マイナス 0 ~ 0.5 段以下となった場合、ファインダー内に手振れ警告マーク 2Hz の点滅で警告

測光範囲：EV -1 ~ 20（常温常湿）（50mmF1.4 レンズ使用換算、ISO100）

使用フィルム感度：ISO6 ~ 6400、DX コード自動対応

露出補正：1/2 段ずつ ± 2 段

オートブラケティング：1/2 段ずつ ± 2 段。露出アンダー、適正および露出オーバーの順で連写多重露出：9 回まで予約可能。予約回数撮影後に自動的に解除

AF 制御方式：TTL-CT-SIR 方式（TTL クロスタイプ二次結像位相差検出方式）

① ONE SHOT AF/測距完了にて停止、測距完了後にリリース可能

② AI SERVO AF/被写体の動きに追従、測距完了後にリリース可能、動体予測機能装備

③ マニュアル/フォーカスモードスイッチを M にし、手動フォーカスリングを回すことにより可能

AF 測距輝度範囲: EVO~18 (ISO100)

AF 補助光: 内蔵 AF 補助光を自動的に投光

シャッター: 縦走りフォーカスプレーン式全速電子制御シャッター

シャッター速度: 1/4000~30 秒およびバルブ、X 接点は 1/125 秒 (1/2 段ずつのセット可能)

セルフタイマー: 電子制御式 (時限約 10 秒)

フィルム装てん: 自動、フィルムセット後背蓋を閉じると、1 枚目まで自動空送りし停止

巻き上げ: 専用小型モーターによる自動巻き上げ

① □ (一枚撮り)

② ㊦ (秒間最高約 3 コマで連続撮影)

・ ISO50 以下の低感度フィルムを使用した場合、連続撮影時のコマ送り速度は遅くなります。

巻き戻し: フィルム終了と同時に専用小型モーターによる自動巻き戻し

内蔵ストロボ: ベンタ部内蔵リトラクタブル式 TTL 自動調光ストロボ、並列制御式

① ガイドナンバー/ 12 (28mm) ~ 17 (80mm)
(ISO100・m)

② 充電時間/約 2 秒

③ 照射角/使用レンズの焦点距離に応じ 28mm、50mm、80mm に対応してオートズーム

④ 発光条件/全自動、イメージセレクト、オートコードモードの一部のプログラムで逆光時および低輝度時に自動発光

調光絞り値:

① 各プログラム AE /TTL プログラムにより調光絞り値を自動セット

② Av、マニュアル/任意の絞り値を手動セット

③ Tv/手動セットしたシャッター速度に対し、周辺輝度に応じて絞り値を自動セット

同調シャッター速度:

① 各プログラム AE/ 1/60 ~ 1/125 秒に自動セット

② Av/セットした絞り値に対し周辺輝度に応じて 30" ~ 1/125 秒自動セット

③ Tv、マニュアル/ 1/125 秒以下の任意のシャッター速度を手動セット

フラッシュ接点: X 接点/アクセサリシュー部に直接接点あり

グリップ: 延長グリップ (別売) の取り付け可

表示パネル: AF モード、フィルム巻き上げモード、シャッター速度、絞り値、フィルム感度、電池チェック、露出補正などの表示を必要に応じて行う

カスタム機能: 7 種内蔵、選択可

電源: リチウム電池/パック (2CR5 2) 1 個

バッテリーチェック: モードダイヤル L 位置解除で自動バッテリーチェック、表示パネル上に 4 段階表示

大きさ: 154.2 (W) × 105.0 (H) × 69.1 (D) mm

重量: 580 g (ボディのみ)

日付/時刻写し込み機能

方式：液晶表示式、クォーツデジタル時計内蔵オートカレンダー（西暦 2019 年まで、うるう年自動修正）

写し込みデータ：①年・月・日、②日・時・分、③写し込み無し、④月・日・年、⑤日・月・年

写し込み色：オレンジ色

時計機構：常温 20°C 下で月差 ±90 秒以下

電源：リチウム電池 CR2025、1 個 寿命約 3 年

EF28-80 F3.5-5.6USM ズームレンズ

画角	対角線	75°~30°
	垂直	46°~17°
	水平	65°~25°
レンズ構成枚数	9 群 10 枚	
最小絞り	F 22~38	
撮影距離範囲	0.8 m(マクロ使用時 0.5 m)~∞	
最大撮影倍率と画界	28 mm 0.04(マクロ使用時 0.069) 612×940mm(マクロ使用時 357×550mm)	
	80 mm 0.106(マクロ使用時 0.182) 225×337mm(マクロ使用時 131×196mm)	
フィルター径	58 mm	
フード	EW-68A	
長さ×最大径	77.5×72 mm	
重量	330 g	
ケース (ハードケース)	LH-B12	

レンズキャップ・フィルターの取り付けは、レンズのワイド端・テレ端で行って下さい。

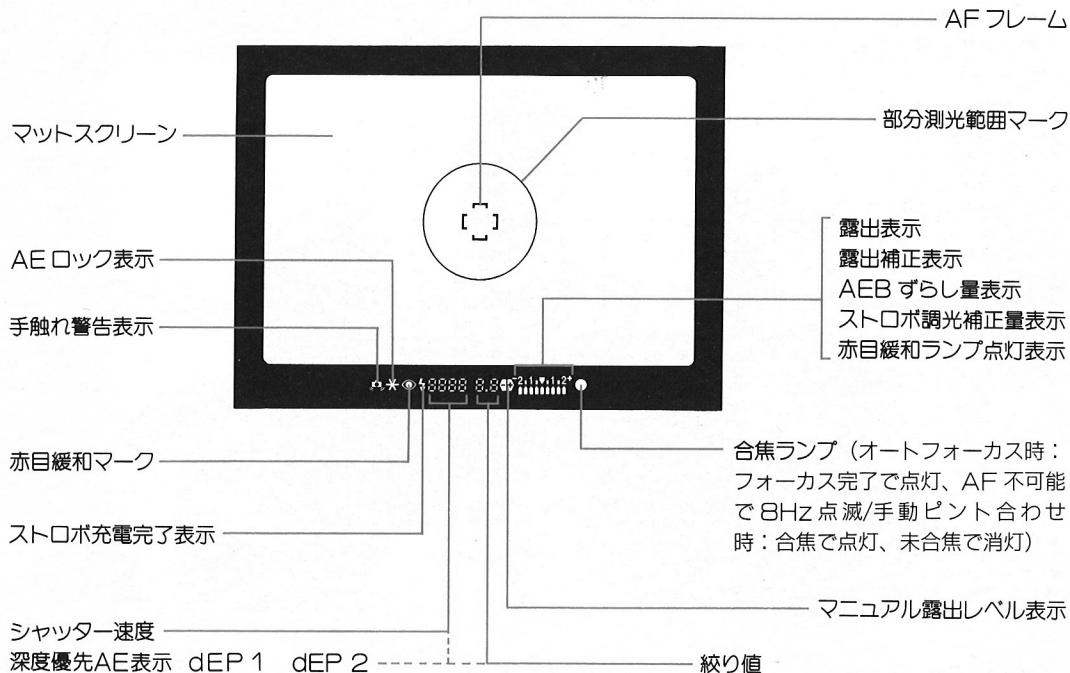
また偏光フィルターの使用は、ワイド端・テレ端のみで行って下さい。

・都合により製品の仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。

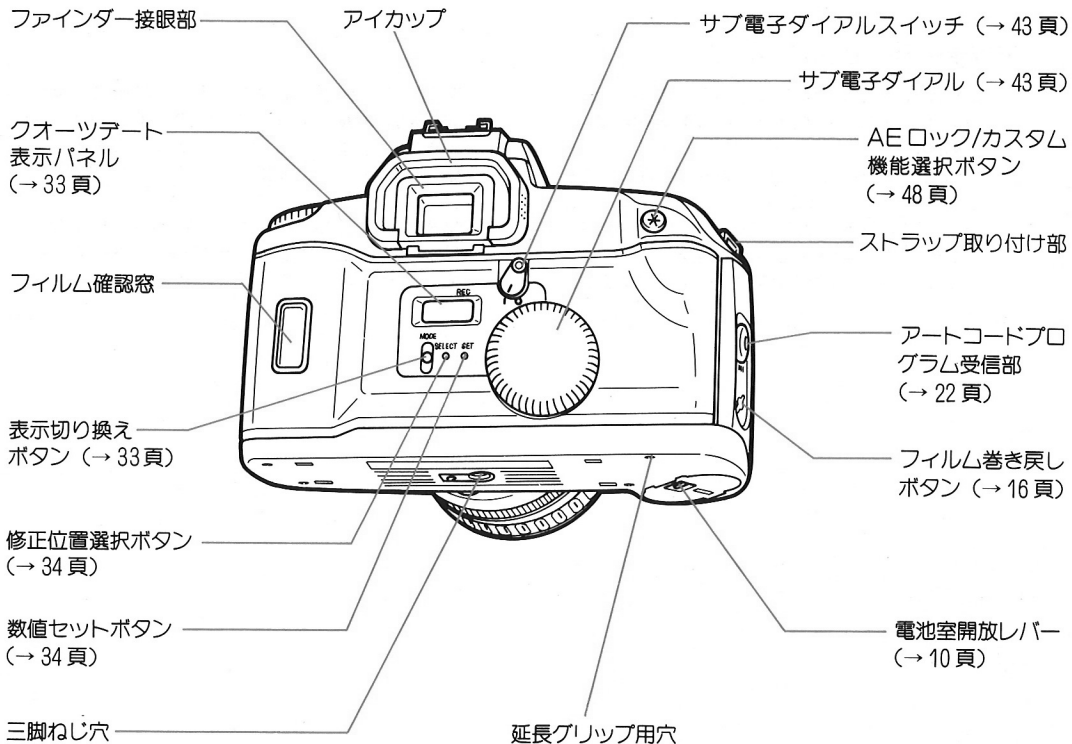
(データはすべて当社試験条件によります)

ファインダー内表示

下の図はファインダー内の情報をすべて表示したものです。実際は必要な情報だけが表示されます。



各部の名称



アフターサービスについて

1. 保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお、運賃諸掛かりはお客様にてご負担願います。
2. 本製品の補修用性能部品（製品の機能を維持するために不可欠な部品）は、日本国内において、10年間を目安に保有しています。したがって期間中は原則として修理をお受けいたします。なお、故障の原因や内容によっては、期間中でも修理が困難な場合と期間後でも修理が可能な場合がありますので、その判定につきましてはお買い上げ店または、裏表紙記載の当社サービス機関にお問い合わせください。
3. 修理品をご送付の場合は、見本のフィルムを添付するなど、修理箇所を明確にご指示のうえ、十分な梱包でお送りください。